

立教大学経済研究所主催 公開講演会

アベノミクスと雇用改革

『ブラック企業』問題からワークライフバランスまで

いま、若者を使い潰す「ブラック企業」や「マタニティ・ハラスメント」（職場における妊娠や出産にたいする嫌がらせ）など、労働環境の劣化が社会問題化しています。

そうしたなか、政府は「アベノミクス」の一環として雇用改革を打ち出しています。その改革案は、勤務地や仕事内容を限定する「限定正社員」、一定水準以上の年収の人に残業代を支払わない「新しい労働時間制度」など多岐にわたり、これまでの働き方を大きく変えることになる内容を含んでいます。このような雇用改革は、現在の労働環境にとってどのような意味をもつのでしょうか。

本講演会では、社会保障、労働経済、そしてブラック企業問題の専門家をお招きし、これらの問題について理解を深めたいと思います。

日時：2014年12月3日(水)18:30~20:30 (開場 18:20)

会場：立教大学池袋キャンパス 8号館 8201 教室

対象：本学学生、大学院生、教職員、一般

申込：不要

【プログラム】

第一部 パネリストによる講演(18:30~19:40)

▽首藤若菜氏「働き方をどう変えるか—雇用改革をめぐる論点整理」

▽大沢真理氏「アベノミクスと働き方改革」

▽今野晴貴氏「ブラック企業とこれからの若者の働き方」

▽神林龍氏 「雇用改革について」

第二部 パネルディスカッション(19:40~20:30)

問合せ先：立教大学経済研究所

Tel : 03-3985-4121

Email:rie@rikkyo.ac.jp

【講師紹介】



大沢 真理氏(東京大学社会科学研究所教授)

東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。

経済学博士（東京大学）、専攻は社会政策の比較ジェンダー分析。日本学術会議会員。ベルリン自由大学、ボッフム大学、アジア工科大学院大学、ハンザ先端研究所などで客員教授を務める。

単著に『生活保障のガバナンス—ジェンダーとお金の流れで読み解く』（有斐閣）、『現代日本の生活保障システム—座標とゆくえ』（岩波書店）など。



今野 晴貴氏(NPO 法人 POSSE 代表)

若者の労働問題に取り組む NPO 法人 POSSE の代表を務める。

一橋大学大学院社会学研究科博士課程で労働社会学を専攻。

『ブラック企業』（文春新書）で大佛次郎論壇賞を受賞。その他、単著多数。



神林 龍氏(一橋大学経済研究所准教授)

東京大学経済学部経済学科卒業。同大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。

東京都立大学経済学部助教授等を経て、一橋大学経済研究所准教授。専攻は労働経済学。

単著に『解雇規制の法と経済—労使の合意形成メカニズムとしての解雇ルール』（日本評論社）。



首藤 若菜氏(立教大学経済学部准教授)

日本女子大学大学院人間生活学研究科博士課程修了。博士（学術）。

山形大学人文学部助教授、日本女子大学家政学部准教授を経て、現職。

専攻は労使関係論、女性労働論。単著に『統合される男女の職場』（勁草書房）。